

平成25年度の
生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと
今後の課題について

平成25年1月28日
社団法人 日本酪農乳業協会

1. 地域別生乳生産量の動向

【生乳生産量予測の前提】

- ・都府県及び全国の予測値は、指定団体ブロック別の生乳生産量予測値を合算して算出。
- ・指定団体ブロック別の予測値は、過去の生乳生産量実績データの動向パターンに基づく、気温や乳牛頭数等を組み込んだ予測モデル (ARIMA モデル) による推計値を基本に算出。
- ・平成 25 年度の気温は、平年並で設定している。

表 1-1：平成 24 年度 地域別生乳生産量（見通し）

(千トン)

	全 国		北海道		都府県	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
4 月	649	103.3%	325	100.6%	324	106.1%
5 月	671	101.4%	340	101.0%	332	101.9%
6 月	642	102.1%	331	101.0%	311	103.4%
7 月	644	103.3%	338	102.3%	306	104.4%
8 月	630	102.5%	334	102.4%	296	102.6%
9 月	604	101.6%	318	101.6%	286	101.5%
10 月	628	101.3%	329	102.0%	299	100.4%
11 月	605	100.4%	314	101.0%	291	99.7%
12 月	632	99.8%	327	100.5%	305	99.0%
1 月	645	100.0%	335	101.0%	311	98.9%
2 月	592	96.5%	304	97.2%	288	95.7%
3 月	664	99.6%	338	100.8%	326	98.4%
第 1 四半期	1,963	102.3%	996	100.9%	966	103.7%
第 2 四半期	1,878	102.5%	989	102.1%	888	102.9%
第 3 四半期	1,864	100.5%	969	101.2%	895	99.7%
第 4 四半期	1,902	98.7%	977	99.7%	925	97.7%
上期	3,841	102.4%	1,986	101.5%	1,855	103.3%
下期	3,766	99.6%	1,946	100.5%	1,820	98.7%
年度計	7,607	101.0%	3,932	101.0%	3,675	101.0%
閏年修正後						
年度計	7,607	101.3%	3,932	101.3%	3,675	101.2%

表 1-2：平成 25 年度 地域別生乳生産量（見通し）

(千トン)

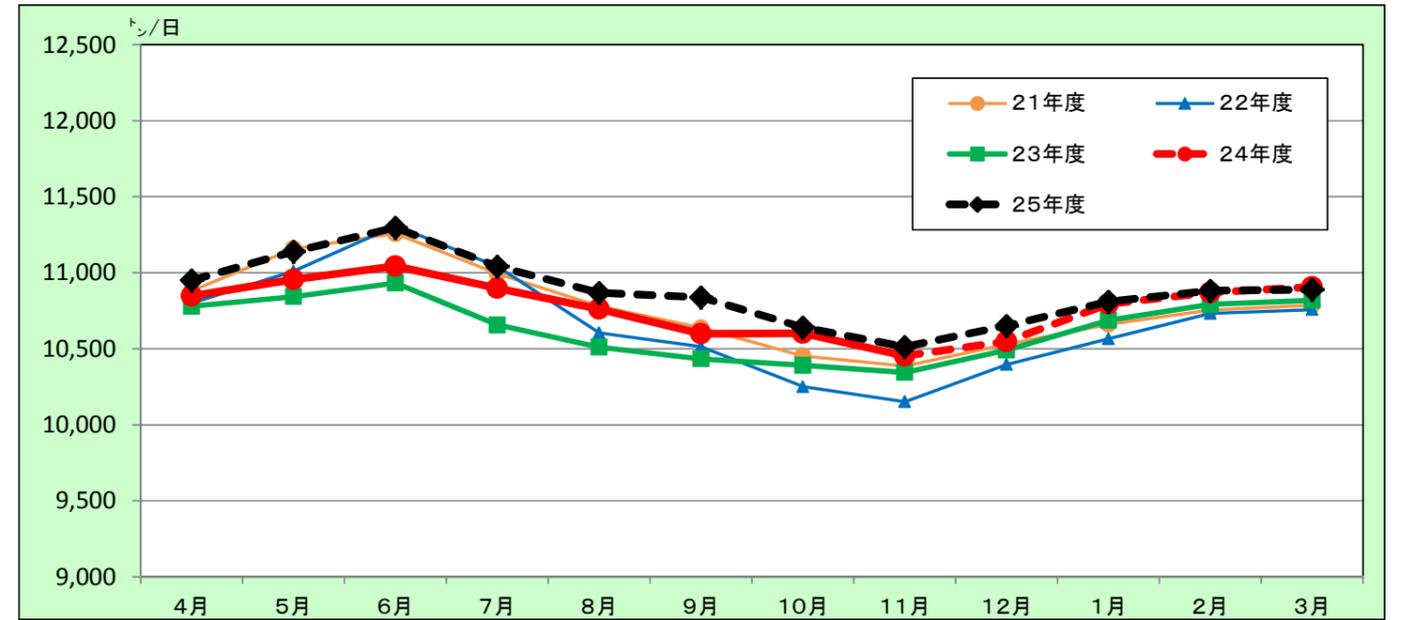
	全 国		北海道		都府県	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
4 月	651	100.3%	328	101.0%	323	99.6%
5 月	675	100.5%	345	101.7%	330	99.4%
6 月	644	100.4%	339	102.3%	305	98.3%
7 月	640	99.3%	342	101.3%	298	97.1%
8 月	624	99.1%	337	101.0%	288	97.1%
9 月	604	100.0%	325	102.3%	279	97.5%
10 月	620	98.7%	330	100.4%	290	97.0%
11 月	597	98.7%	315	100.6%	282	96.8%
12 月	626	99.1%	330	101.0%	296	97.0%
1 月	638	98.8%	335	100.2%	302	97.3%
2 月	586	98.8%	305	100.1%	281	97.5%
3 月	656	98.7%	338	99.8%	318	97.6%
第 1 四半期	1,970	100.4%	1,013	101.6%	958	99.1%
第 2 四半期	1,868	99.5%	1,004	101.5%	864	97.2%
第 3 四半期	1,843	98.9%	975	100.6%	868	96.9%
第 4 四半期	1,879	98.8%	977	100.0%	901	97.5%
上期	3,838	99.9%	2,017	101.6%	1,821	98.2%
下期	3,722	98.8%	1,953	100.3%	1,769	97.2%
年度計	7,560	99.4%	3,970	101.0%	3,590	97.7%

【生乳生産量の見通し】

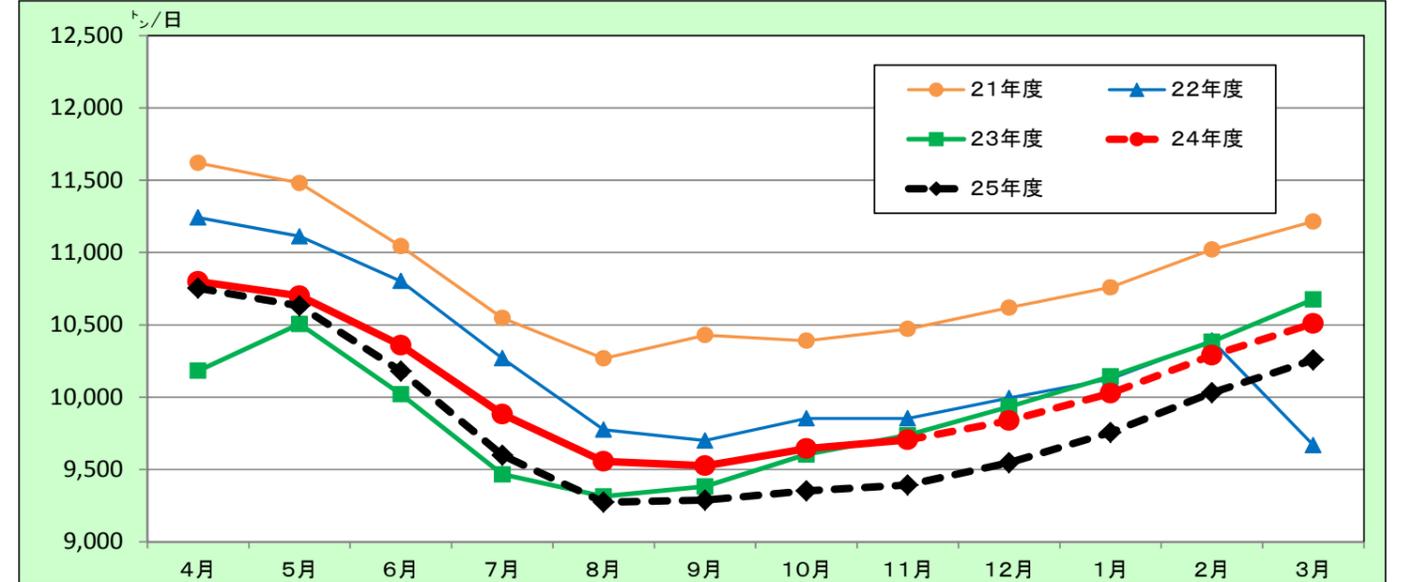
24年度の生乳生産量は、増産方向での生乳計画生産対策や国の施策等を受け、酪農生産者の増産意欲向上や、生産者組織においても積極的な増産対策が推進されたこと等から、北海道・都府県ともに、年度計では23年度を上回る見込みとなっている。

25年度の生乳生産量は、引き続き増産方向での各種対策が図られると見込まれるものの、酪農生産者戸数及び乳牛頭数が減少傾向で推移することが見込まれること等から、北海道では24年度をやや上回る程度、都府県では24年度を下回って推移すると見込まれ、その結果、全国では24年度をやや下回る程度で推移するものと見込まれる。

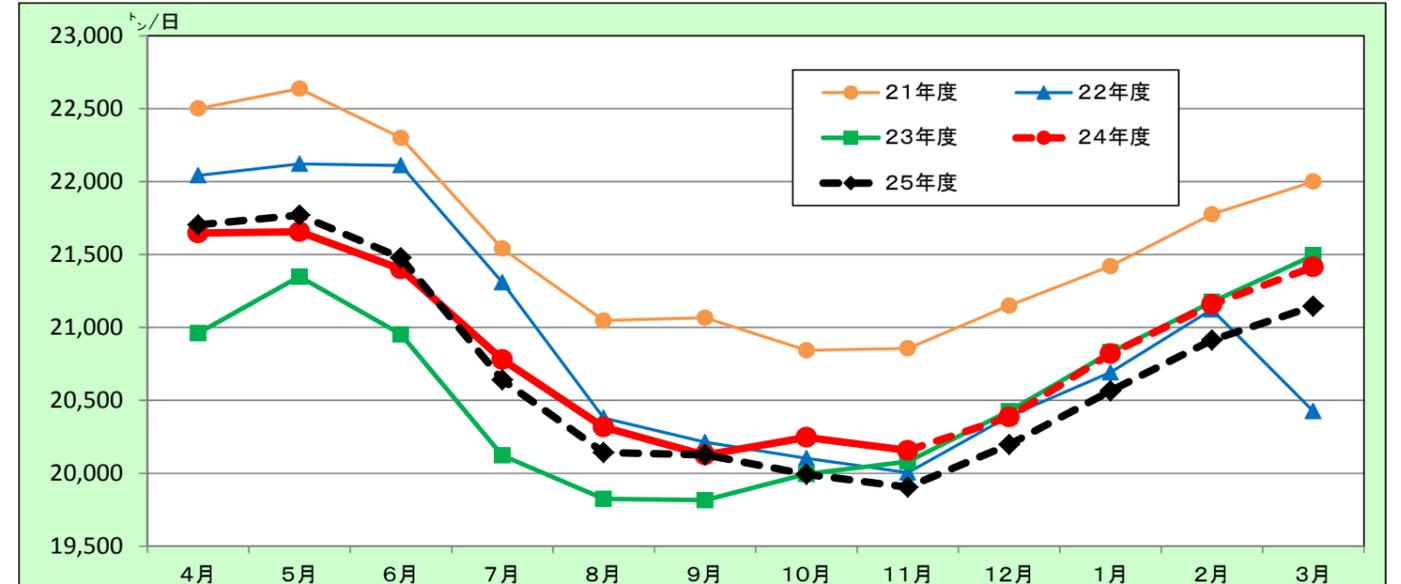
グラフ 1-1：北海道の生産量（日均量）



グラフ 1-2：都府県の生産量（日均量）



グラフ 1-3：全国の生産量（日均量）



2. 牛乳等生産量の動向

【牛乳等生産量予測の前提】

- ・各々の予測値は、過去の生産量実績データの動向パターンに基づく、気温や平日日数等を組み込んだ予測モデル(ARIMA モデル)による推計値を基本に算出。
- ・平成 25 年度の気温は、平年並で設定している。

表 2-1：平成 24 年度 牛乳等生産量（見通し）

	牛乳類		牛乳		加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
4 月	394	98.2%	247	97.4%	13	71.1%	30	106.2%	103	102.7%	86	127.2%
5 月	423	98.3%	264	97.8%	13	79.7%	32	96.5%	114	102.8%	89	124.1%
6 月	422	97.8%	264	97.5%	11	71.1%	31	93.2%	116	103.6%	86	110.2%
7 月	434	99.3%	263	100.3%	12	68.6%	33	93.8%	126	102.8%	86	112.7%
8 月	420	99.2%	244	99.2%	11	69.3%	34	93.4%	130	104.6%	83	112.5%
9 月	443	99.3%	274	100.9%	11	69.5%	32	93.3%	125	101.6%	84	110.7%
10 月	444	101.5%	275	101.0%	12	77.4%	31	93.1%	126	108.3%	83	110.5%
11 月	398	97.6%	256	98.9%	11	74.3%	28	91.7%	103	99.7%	76	106.5%
12 月	379	97.9%	241	98.8%	11	72.6%	27	90.4%	99	102.0%	72	108.1%
1 月	382	98.4%	245	99.1%	11	76.6%	28	93.4%	98	101.6%	77	105.4%
2 月	364	96.1%	236	95.8%	10	76.0%	26	92.4%	91	101.2%	77	95.4%
3 月	385	99.3%	241	99.2%	12	82.1%	30	96.6%	103	102.7%	85	100.1%
第 1 四半期	1,239	98.1%	775	97.6%	38	73.9%	93	98.3%	333	103.1%	261	120.1%
第 2 四半期	1,296	99.2%	782	100.2%	35	69.1%	99	93.5%	381	103.0%	253	112.0%
第 3 四半期	1,221	99.1%	772	99.6%	35	74.8%	86	91.8%	329	103.6%	231	108.4%
第 4 四半期	1,130	98.0%	722	98.0%	33	78.3%	84	94.1%	292	101.8%	240	100.1%
上期	2,536	98.7%	1,557	98.9%	72	71.5%	192	95.8%	714	103.1%	514	116.0%
下期	2,352	98.5%	1,494	98.8%	68	76.4%	170	92.9%	621	102.7%	471	104.0%
年度計	4,887	98.6%	3,050	98.9%	140	73.8%	362	94.4%	1,335	102.9%	985	109.9%
閏年修正後												
年度計	4,887	98.9%	3,050	99.1%	140	74.0%	362	94.7%	1,335	103.2%	985	110.3%

表 2-2：平成 25 年度 牛乳等生産量（見通し）

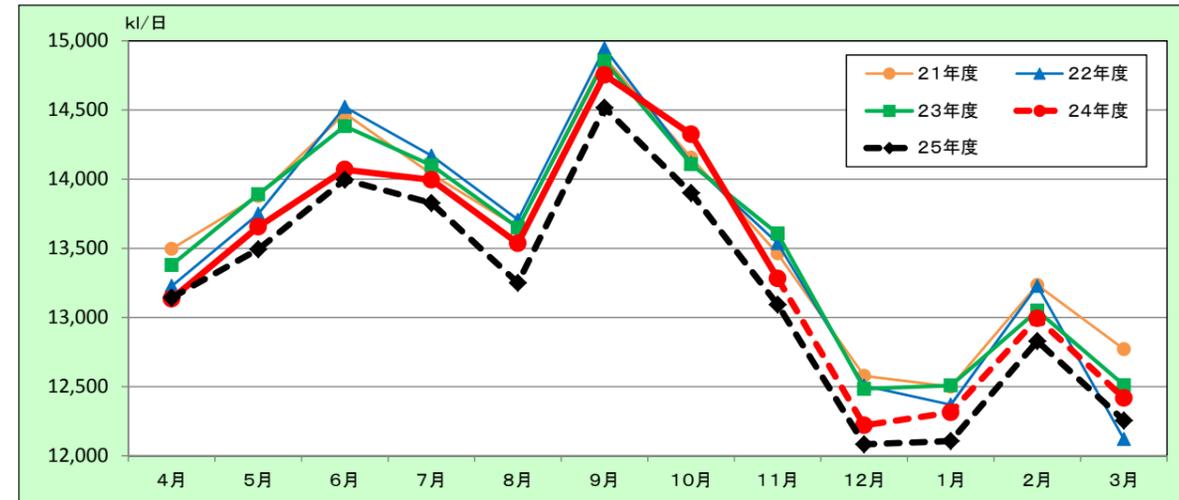
	牛乳類		牛乳		加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
4 月	394	100.1%	248	100.4%	12	87.2%	29	97.1%	105	101.8%	87	101.2%
5 月	418	98.8%	262	99.1%	12	89.9%	31	96.9%	113	99.6%	90	101.5%
6 月	420	99.5%	263	99.8%	12	103.3%	31	99.9%	114	98.3%	89	103.9%
7 月	429	98.8%	260	99.1%	12	106.3%	33	99.1%	123	97.3%	91	104.9%
8 月	411	97.9%	240	98.2%	13	109.2%	33	98.7%	125	96.1%	86	103.7%
9 月	435	98.4%	269	98.0%	12	107.2%	32	99.4%	122	98.1%	86	102.8%
10 月	431	97.0%	269	97.8%	12	99.4%	31	99.7%	119	94.4%	88	105.7%
11 月	393	98.6%	250	97.9%	11	96.3%	28	100.0%	104	100.2%	81	106.5%
12 月	375	98.9%	237	98.3%	11	95.4%	27	100.0%	100	100.4%	78	108.0%
1 月	375	98.3%	238	97.4%	10	94.6%	28	100.2%	98	100.4%	82	106.7%
2 月	359	98.7%	232	98.1%	10	94.5%	26	100.3%	91	100.5%	81	106.0%
3 月	380	98.7%	236	97.9%	11	94.4%	30	100.4%	103	100.5%	91	105.9%
第 1 四半期	1,232	99.4%	773	99.8%	35	93.0%	91	98.0%	333	99.8%	267	102.2%
第 2 四半期	1,275	98.4%	770	98.5%	37	107.5%	98	99.0%	370	97.2%	263	103.8%
第 3 四半期	1,198	98.1%	756	98.0%	34	97.0%	85	99.9%	323	98.1%	247	106.7%
第 4 四半期	1,115	98.6%	706	97.8%	31	94.5%	84	100.3%	293	100.5%	254	106.2%
上期	2,507	98.9%	1,543	99.1%	72	99.9%	189	98.5%	703	98.4%	530	103.0%
下期	2,313	98.3%	1,462	97.9%	65	95.8%	170	100.1%	616	99.2%	501	106.4%
年度計	4,820	98.6%	3,005	98.5%	137	97.9%	359	99.3%	1,318	98.8%	1,031	104.6%

【牛乳等生産量の見通し】

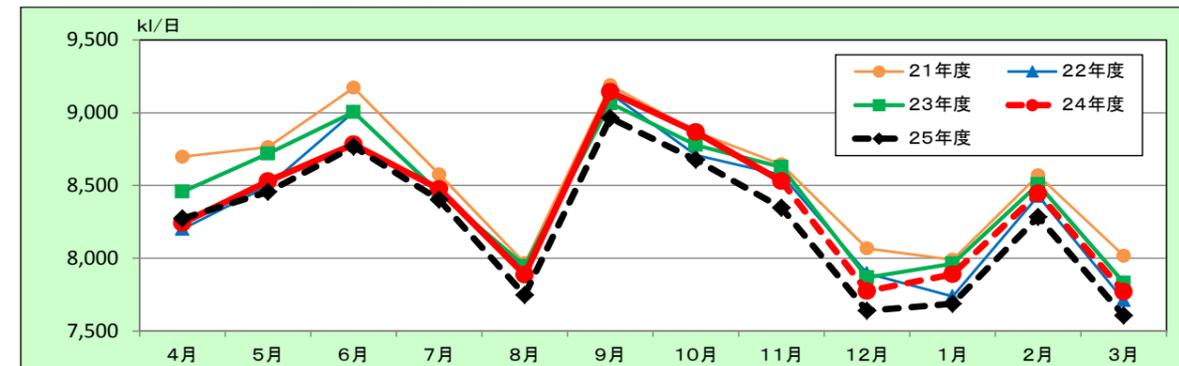
24年度の牛乳等の生産量は、牛乳需要が比較的堅調だったことや、乳飲料やはっ酵乳が好調だったことから、全体としては減少基調ではあるものの、従来と比較すると減少幅は抑えられての推移となっている。

25年度の牛乳類の生産量は、各々、基本的に24年度と同様の傾向で推移すると見込まれるが、需要は引き続き減少基調であることから、全体的に24年度を下回って推移するものと見込まれる。なお、はっ酵乳については、伸び率の鈍化はあるものの、24年度に引き続き、好調に推移するものと見込まれる。

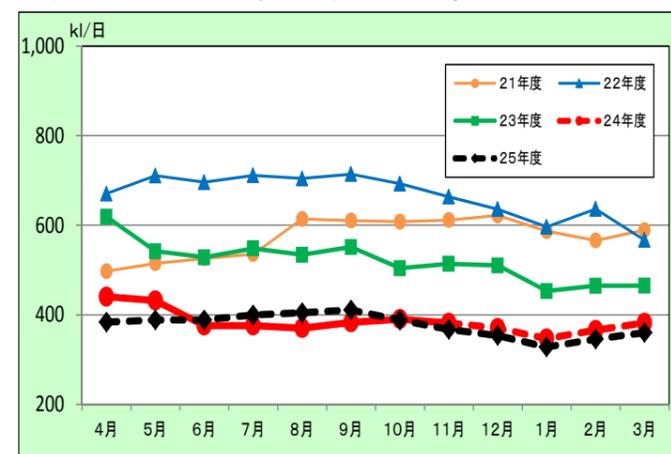
グラフ 2-1：牛乳類（牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料）の生産量（日均量）



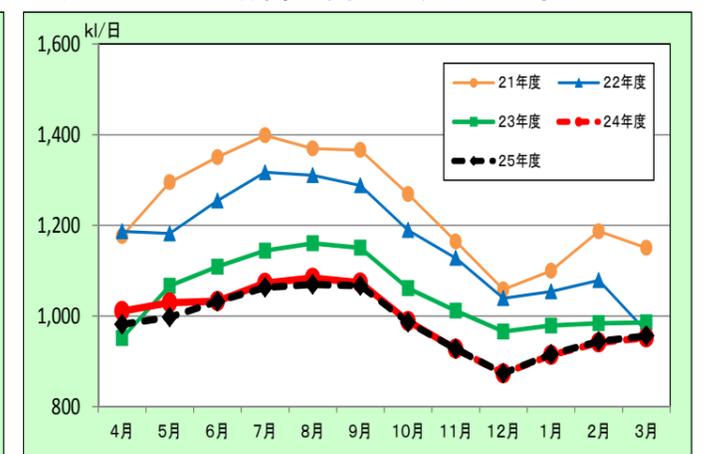
グラフ 2-2：牛乳の生産量（日均量）



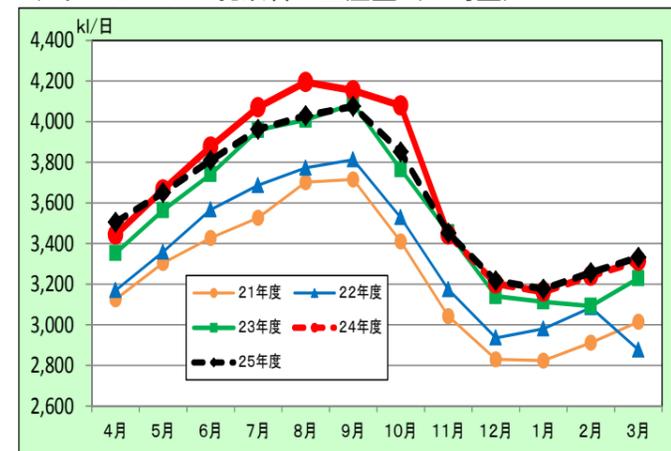
グラフ 2-3：加工乳の生産量（日均量）



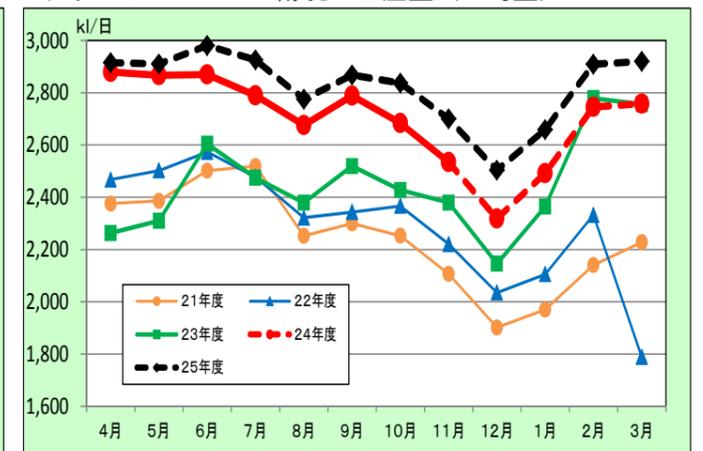
グラフ 2-4：成分調整牛乳の生産量（日均量）



グラフ 2-5：乳飲料の生産量（日均量）



グラフ 2-6：はっ酵乳の生産量（日均量）



3. 用途別処理量の動向

【用途別処理量予測の前提】

- ・生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出(自家消費量は、各地域の直近までの動向を踏まえ設定)。
- ・牛乳等向処理量は、牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を基に、生乳使用率、比重(1.032)及び歩留まり(99.5%)を勘案して算出。
- ・乳製品向処理量は、生乳供給量と牛乳等向処理量の差。

表3-1：平成24年度 生乳供給量及び用途別処理量（見通し）

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		牛乳等向		乳製品向	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	649	103.3%	5	89.6%	645	103.4%	329	98.0%	316	109.7%
5月	671	101.4%	5	89.1%	667	101.5%	351	97.8%	316	106.0%
6月	642	102.1%	5	92.5%	637	102.2%	351	99.9%	286	105.3%
7月	644	103.3%	5	89.1%	639	103.4%	348	97.3%	291	111.8%
8月	630	102.5%	5	87.5%	625	102.6%	332	98.1%	293	108.2%
9月	604	101.6%	5	84.8%	599	101.7%	361	100.5%	238	103.7%
10月	628	101.3%	5	88.4%	623	101.4%	357	101.3%	266	101.5%
11月	605	100.4%	5	96.9%	600	100.4%	329	97.7%	271	104.0%
12月	632	99.8%	5	91.8%	627	99.9%	312	98.4%	315	101.4%
1月	645	100.0%	5	98.1%	641	100.0%	321	98.6%	320	101.4%
2月	592	96.5%	4	94.0%	588	96.5%	308	95.3%	280	97.9%
3月	664	99.6%	5	98.4%	659	99.6%	322	98.6%	337	100.7%
第1四半期	1,963	102.3%	15	90.4%	1,948	102.4%	1,031	98.6%	917	107.0%
第2四半期	1,878	102.5%	15	87.1%	1,863	102.6%	1,041	98.6%	822	108.1%
第3四半期	1,864	100.5%	15	92.2%	1,849	100.5%	997	99.2%	852	102.2%
第4四半期	1,902	98.7%	14	96.8%	1,888	98.7%	951	97.5%	937	100.1%
上期	3,841	102.4%	29	88.7%	3,811	102.5%	2,072	98.6%	1,739	107.5%
下期	3,766	99.6%	29	94.4%	3,737	99.6%	1,948	98.3%	1,789	101.1%
年度計	7,607	101.0%	58	91.5%	7,548	101.0%	4,020	98.5%	3,528	104.2%
閏年修正後										
年度計	7,607	101.3%	58	91.7%	7,548	101.3%	4,020	98.7%	3,528	104.5%

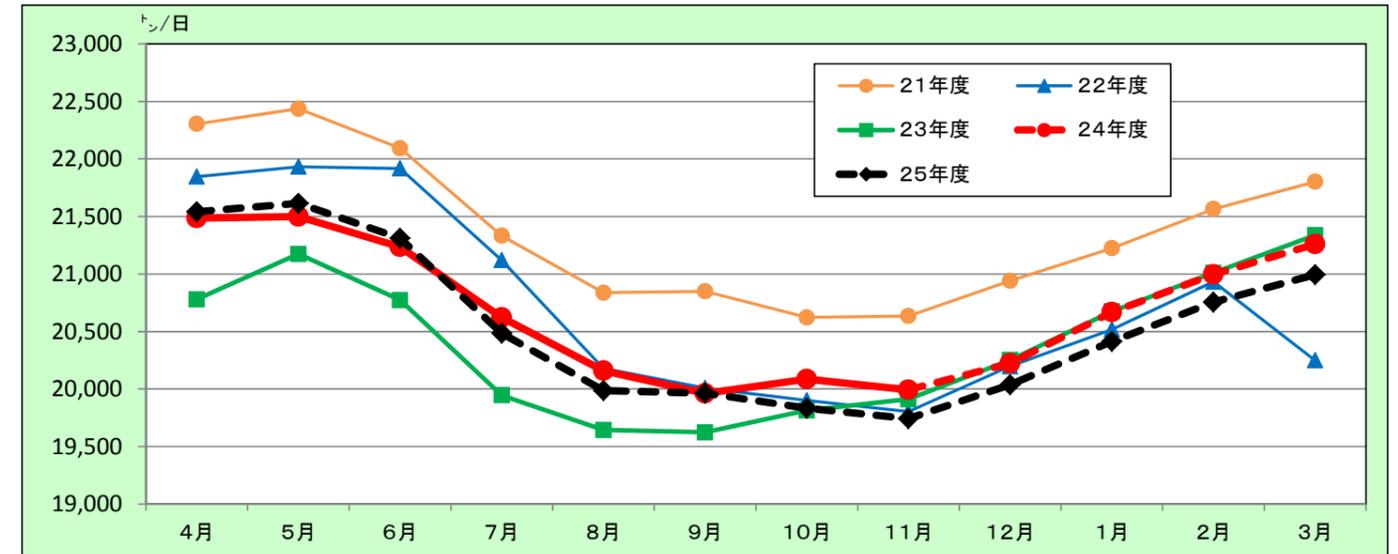
表3-2：平成25年度 生乳供給量及び用途別処理量（見通し）

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		牛乳等向		乳製品向	
		前年比								
4月	651	100.3%	5	100.2%	646	100.3%	330	100.3%	316	100.2%
5月	675	100.5%	5	100.5%	670	100.5%	348	99.2%	322	102.0%
6月	644	100.4%	5	100.3%	639	100.4%	351	100.0%	288	100.8%
7月	640	99.3%	5	99.3%	635	99.3%	346	99.4%	289	99.2%
8月	624	99.1%	5	99.1%	620	99.1%	327	98.5%	292	99.9%
9月	604	100.0%	5	99.9%	599	100.0%	356	98.5%	243	102.3%
10月	620	98.7%	5	98.7%	615	98.7%	350	98.1%	265	99.6%
11月	597	98.7%	5	98.7%	592	98.8%	325	98.7%	268	98.8%
12月	626	99.1%	5	99.0%	621	99.1%	309	99.1%	312	99.0%
1月	638	98.8%	5	98.8%	633	98.8%	316	98.5%	317	99.1%
2月	586	98.8%	4	98.9%	581	98.8%	305	98.9%	277	98.8%
3月	656	98.7%	5	98.7%	651	98.7%	319	98.9%	332	98.6%
第1四半期	1,970	100.4%	15	100.3%	1,956	100.4%	1,029	99.8%	927	101.0%
第2四半期	1,868	99.5%	15	99.4%	1,854	99.5%	1,029	98.8%	824	100.3%
第3四半期	1,843	98.9%	15	98.8%	1,828	98.9%	984	98.6%	845	99.1%
第4四半期	1,879	98.8%	14	98.8%	1,865	98.8%	939	98.8%	926	98.8%
上期	3,838	99.9%	29	99.9%	3,809	99.9%	2,058	99.3%	1,751	100.7%
下期	3,722	98.8%	29	98.8%	3,693	98.8%	1,923	98.7%	1,771	99.0%
年度計	7,560	99.4%	58	99.3%	7,502	99.4%	3,981	99.0%	3,521	99.8%

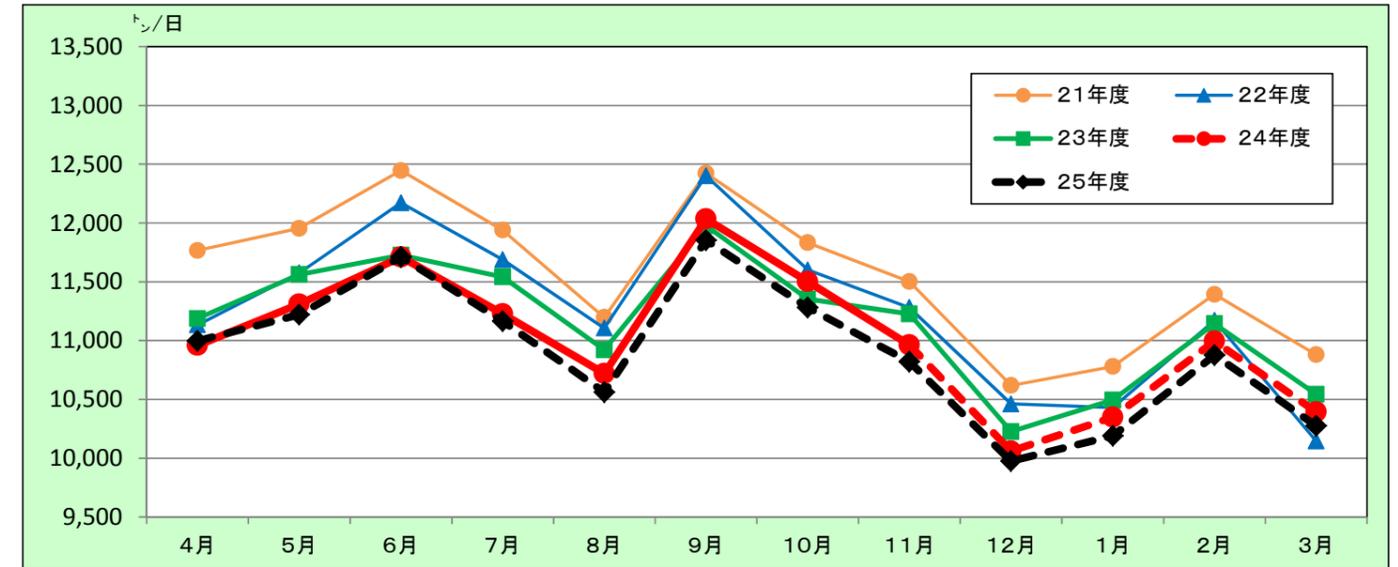
【用途別処理量の見通し】

25年度の用途別処理量を見ると、牛乳等生産量の減少基調での推移が見込まれることから、牛乳等向処理量は24年度を下回ると見込まれる。また、生乳供給量も24年度をやや下回ることから、乳製品向処理量についても24年度と同程度かやや下回る程度で推移するものと見込まれる。

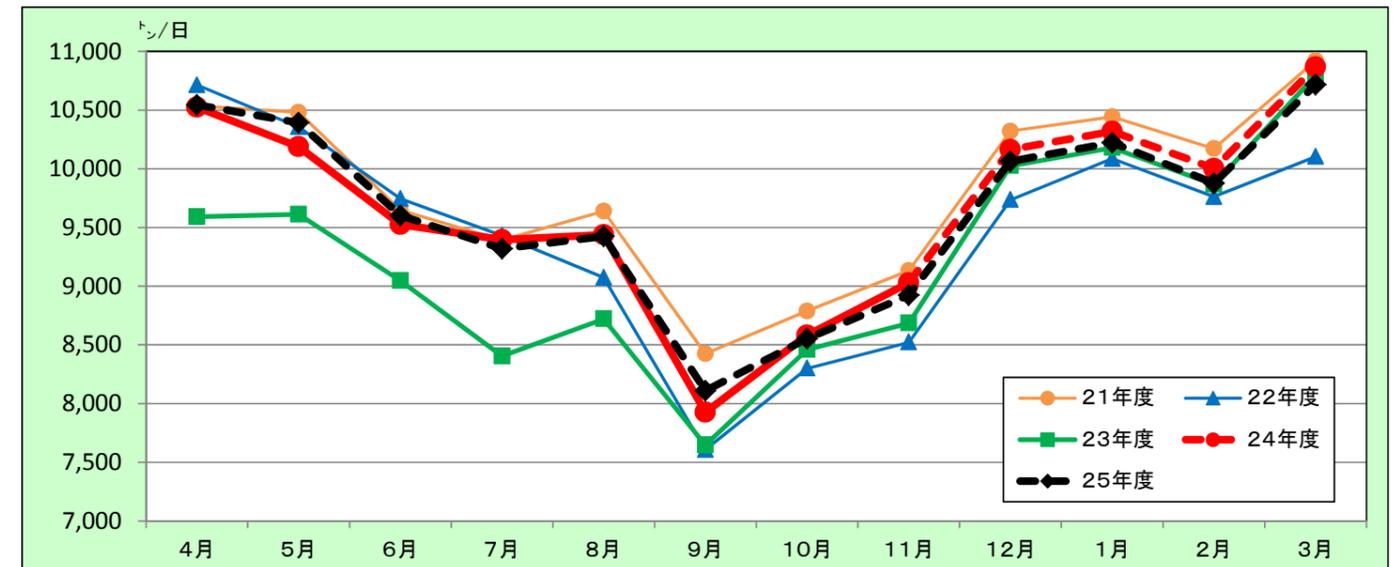
グラフ3-1：生乳供給量（日均量）



グラフ3-2：牛乳等向生乳処理量（日均量）



グラフ3-3：乳製品等向生乳処理量（日均量）



4. 乳製品需給の動向

【特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)需給予測の前提】

- ・特定乳製品向処理見込数量は、乳製品向処理量からその他乳製品(生クリーム等・チーズ)向処理見込数量を差し引いて算出。
- ・脱脂粉乳・バターの生産量は、特定乳製品向処理見込数量に製造係数(直近の動向等を反映した数値)を乗じて算出。
- ・脱脂粉乳・バターの消費量は、過去の実績データの動向パターンに基づく、代替関係にある乳製品の処理見込数量等を変数に組み込んだ予測モデル(ARIMAモデル)による推計値を基本に算出。
- ・乳製品の在庫月数は、当該月の在庫量を前年度の一ヶ月平均の消費量で割ることで算出している。

表4-1: 平成25年度 脱脂粉乳の需給(見通し)

	生産量		輸入量 (売渡)	供給量		消費量		過不足 A+B-C	年度末在庫量 (民間在庫量)		
	A	前年比		A+B	前年比	C	前年比		月数	前年比	
	21年度	170.2	109.6%	6.1	176.3	113.5%	149.7	96.6%			26.6
22年度	148.8	87.4%	1.0	149.8	85.0%	160.8	107.4%	-11.0	58.7	4.7	84.2%
23年度	134.9	90.7%	0.0	134.9	90.1%	146.0	90.8%	-11.1	47.6	3.8	81.1%
24年度	136.8	101.4%	0.0	136.8	101.4%	141.0	96.6%	-4.2	43.4	3.6	91.2%
25年度	136.3	99.6%	8.2	144.5	105.6%	145.3	103.0%	-0.8	42.7	3.6	98.2%

※25年度の輸入量は、カレントアクセス枠量からホエイ類輸入見込み量4.5千トンを除いた残量を脱脂粉乳・バターで半分ずつ輸入した場合で仮定

表4-2: 平成25年度 バターの需給(見通し)

	生産量		輸入量 (売渡)	供給量		消費量		過不足 A+B-C	年度末在庫量 (民間在庫量)		
	A	前年比		A+B	前年比	C	前年比		月数	前年比	
	21年度	82.0	114.0%	0.0	82.0	94.9%	77.5	100.0%			4.5
22年度	70.1	85.5%	1.6	71.8	87.5%	83.7	108.0%	-12.0	20.6	3.2	63.3%
23年度	63.1	89.9%	13.6	76.7	106.8%	78.2	93.4%	-1.5	19.1	2.8	92.6%
24年度	70.3	111.5%	9.4	79.7	104.0%	75.2	96.2%	4.5	23.6	3.6	123.8%
25年度	70.1	99.6%	4.3	74.4	93.3%	76.2	101.3%	-1.8	21.8	3.5	92.4%

※25年度の輸入量は、カレントアクセス枠量からホエイ類輸入見込み量4.5千トンを除いた残量を脱脂粉乳・バターで半分ずつ輸入した場合で仮定

【乳製品需給の見通し】

25年度の乳製品向処理量(乳製品向生乳供給量)は、24年度と同程度かやや下回る程度で推移すると見込まれる。こうした中、その他乳製品(チーズ・生クリーム等)向処理量が24年度と同程度と見込まれることから、特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)向処理量及び脱脂粉乳・バターの生産量についても、24年度と同程度かやや下回る程度で推移するものと見込まれる。

25年度の脱脂粉乳・バターの消費量は、供給面における制約が継続することは国内乳製品需要の減退を招く懸念もあるため、業界をあげた対応が必要であるという認識も醸成されており、24年度を上回って推移するものと見込まれる。

25年度の在庫量については、今後のカレントアクセス等による輸入量を勘案しても、脱脂粉乳・バターともに、依然、生産量が消費量を下回る状況が継続すると見込まれることから、24年度をやや下回る見込みである。

5. 国産生乳需要の見通し

【国産生乳需要予測の前提】

- ・脱脂粉乳ベース及びバターベースにおける特定乳製品向需要量は、脱脂粉乳・バターの消費量の予測値から輸入量を差し引いた数量に製造係数(直近の動向等を反映した数値)を乗じて算出。
- ・上記の各々の特定乳製品向需要量に、その他乳製品向処理量を加算して乳製品向需要量を算出し、更に牛乳等向需要量を加算して、脱脂粉乳ベース及びバターベース2通りの国産生乳需要量を算出している。
- ・なお、《参考》の総需要量は、脱脂粉乳・バターの消費量から輸入量を差し引かず必要量を算出した値。

表5-1: 平成25年度 脱脂粉乳ベースの国産生乳需要量(見通し)

	生乳供給量		国産生乳需要量				供給量と 国産需要量 の差 A-B	《参考》 供給量と 総需要量 の差		
	A	前年比	B	前年比	牛乳等向				乳製品向	
	前年比	前年比			前年比	前年比				
21年度	7,805	99.2%	7,488	95.2%	4,219	95.6%	3,269	94.8%	318	244
22年度	7,560	96.9%	7,693	102.7%	4,110	97.4%	3,583	109.6%	▲133	▲145
23年度	7,470	98.8%	7,604	98.8%	4,083	99.3%	3,521	98.3%	▲134	▲134
24年度	7,548	101.0%	7,601	100.0%	4,020	98.5%	3,580	101.7%	▲53	▲53
25年度	7,502	99.4%	7,512	98.8%	3,981	99.0%	3,531	98.6%	▲10	▲113

表5-2: 平成25年度 バターベースの国産生乳需要量(見通し)

	生乳供給量		国産生乳需要量				供給量と 国産需要量 の差 A-B	《参考》 供給量と 総需要量 の差		
	A	前年比	B	前年比	牛乳等向				乳製品向	
	前年比	前年比			前年比	前年比				
21年度	7,805	99.2%	7,694	100.7%	4,219	95.6%	3,476	107.8%	111	111
22年度	7,560	96.9%	7,867	102.2%	4,110	97.4%	3,757	108.1%	▲306	▲348
23年度	7,470	98.8%	7,509	95.5%	4,083	99.3%	3,427	91.2%	▲39	▲391
24年度	7,548	101.0%	7,437	99.0%	4,020	98.5%	3,417	99.7%	111	▲119
25年度	7,502	99.4%	7,546	101.5%	3,981	99.0%	3,565	104.4%	▲44	▲149

【国産生乳需要の見通し】

国産生乳需要量(国内の総生乳需要量からカレントアクセス等輸入量に相当する生乳需要量を差し引いて算出)は、脱脂粉乳ベース(脱脂粉乳需要量を満たすために必要な生乳供給量)で7,512千トン、バターベース(バター需要量を満たすために必要な生乳供給量)で7,546千トンと見込まれる。

現状見込まれる生乳供給量と比較すると、脱脂粉乳ベースで▲10千トン、バターベースで▲44千トンと、いずれも供給量が需要量を下回るものと見込まれる。

6. 需給動向を踏まえた今後の課題と対応について

(1) 生乳生産基盤の維持・強化

24年度の生乳生産量は17年度以来7年ぶりに前年度を上回る見込みであり、継続してなお一層の生乳生産の拡大が期待されるところであるが、25年度の生乳生産量は、本予測においては全国計で前年度をやや下回る程度と見込まれる。

こうした状況を踏まえると、直面する飼料価格高騰やTPPをはじめとする貿易自由化問題に適切に対応するとともに、生乳生産基盤の根幹である酪農生産者戸数や乳牛頭数の減少に歯止めをかけ、新規就農や規模拡大を促進するための対策を業界が一体となって積極的かつ具体的に取り組んでいくことが急務となっている。

また、政府にあっては、今後、国産牛乳乳製品の需要の回復・定着を図る需要基盤強化対策を推進することとしている。こうした施策も踏まえ、酪農乳業としても、今後、需給が緩和するようなことがあっても減産をしないで安心して生乳生産できるような需給セーフティネット等の対策について、政府と業界が一体となって取り組むことも重要な課題である。

なお、以上のような対策を確実なものとするため、情報の共有化に努めるとともに、酪農乳業共同での取り組みの推進のため、縦横での連携強化を図っていく必要がある。

(2) 牛乳乳製品需要の拡大

25年度の牛乳類全体需要については、やや下げ止まり感はあるものの、依然として減少基調で推移する見込みであることから、牛乳乳製品の価値向上を図る対策への業界の取り組みを強化し、需要の確保を図っていくことが重要である。

特に市場の拡大が期待される「はっ酵乳」については、最近の需要増加を一過性のものとしないようにするとともに、酪農乳業の基幹商品である「牛乳」についても、消費減退に歯止めをかけ、価値を反映した適正な価格形成がおこなわれるよう、価値訴求と安定供給などの取り組みを業界が連携して推進していくことが求められる。

25年度の脱脂粉乳の需給については、適切な時期にカレントアクセスが手当てされ、供給の安定化が図られること等から、需要増加の見込みである。バターの需給についても、需要が前年度をやや上回ると見込まれており、特に需要期における需給混乱を避け市場が縮小均衡しないように政府と業界が連携した対応が必要である。

(3) 的確な需給調整対応の実施

25年度の需給状況は、依然、供給・需要の何れの環境も予断を許さない複雑な状況が継続することが予測される。こうしたことから、酪農乳業関係者は、市場に大きな混乱が生じ需要の喪失が起こらないよう、日々の需給動向に注視するとともに情報の共有化、情報発信に努め、消費者やユーザーに不安や不信を与えないよう、的確な需給対応を実施する必要がある。